

微分と偏微分

藪友良

- **微分とは何か**
- **微分の公式**
- **関数の最大化と最小化**
- **合成関数の微分**
- **偏微分**

微分とは何か

- ある値 x に対して、別の値 $f(x)$ を対応させる関係を1変数の関数という

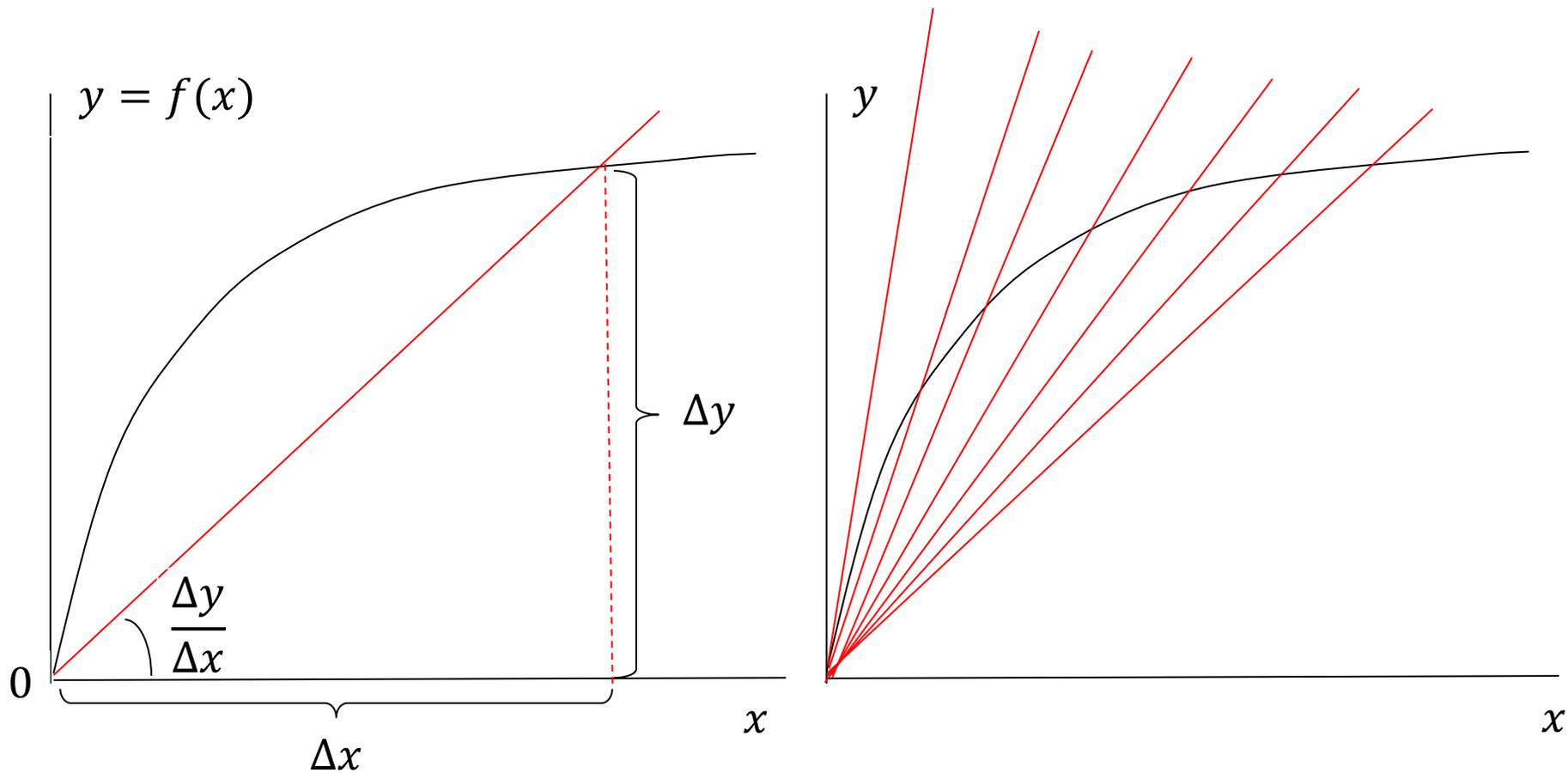
(例) 数値例

$$f(x) = 4 + 2x$$

$$f(x) = 3x^2$$

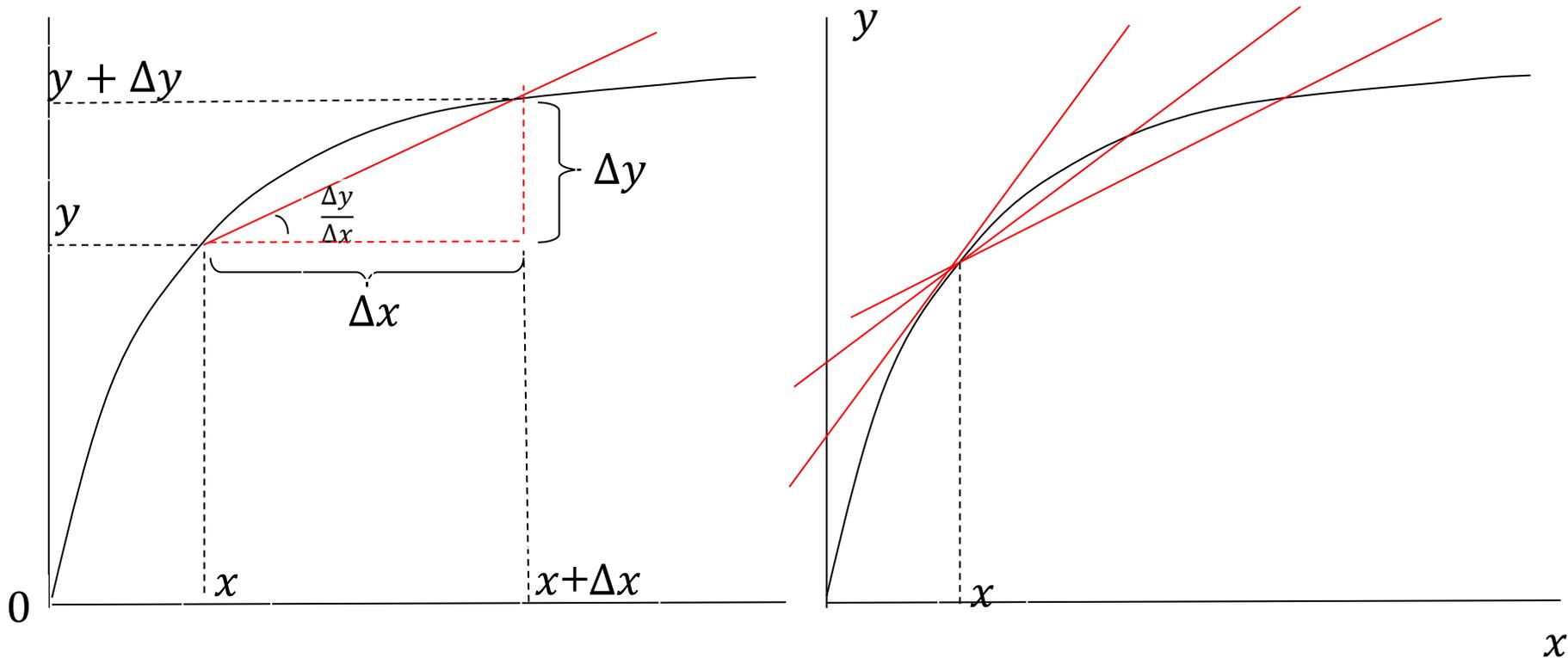
- 微分:「関数 $f(x)$ の接線の傾き」であり、「 x を微小に変化させたとき、 $f(x)$ がどれだけ変化するか」を表す

---微分は、 $f'(x)$ 、 $\frac{df(x)}{dx}$ と表す。



--- Δx を小さくすると、 $\Delta y/\Delta x$ は、原点 0 で評価した関数の接線の傾きに近づく (Δx が非常に 0 に近いとき、 $x = 0$ で評価した微分)

- 接線の傾きは、 x をどの値で評価するかによって異なる



--- Δx を小さくすると、 $\Delta y/\Delta x$ は、 x で評価した関数の接線の傾きに近づく (Δx が非常に0に近いとき、 x で評価した微分)

・ $y = f(x)$ のとき、微分は

$$\begin{aligned}\frac{dy}{dx} &= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} \\ &= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x}\end{aligned}$$

--- $\lim_{\Delta x \rightarrow 0}$ とは、 x の変化が非常に小さい
(Δx が非常に 0 に近い)

微分の公式

・公式1

$y = x^2$ の微分は、

$$\frac{dy}{dx} = 2x$$

[証明] x から $x + \Delta x$ に微小に変化したなら、 $y = x^2$ の微分は

$$\begin{aligned} \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x} &= \frac{(x + \Delta x)^2 - x^2}{\Delta x} \\ &= \frac{\{x^2 + 2x\Delta x + (\Delta x)^2\} - x^2}{\Delta x} \\ &= 2x + \Delta x \end{aligned}$$

よって、 Δx が0に近づくと、 $2x$ となる。

・公式2

$y = x^n$ の微分は、

$$\frac{dy}{dx} = nx^{n-1}$$

[証明] x から $x_* = x + \Delta x$ に変化(つまり、 $\Delta x = x_* - x$)

$$\frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{x_* - x} = \frac{x_*^n - x^n}{x_* - x}$$

なお、 $\frac{x_*^n - x^n}{x_* - x} = x_*^{n-1} + x x_*^{n-2} + x^2 x_*^{n-3} + \dots + x^{n-1}$

(例) $\frac{x_*^2 - x^2}{x_* - x} = x_* + x$ $x_*^2 - x^2 = (x_* + x)(x_* - x)$

$\frac{x_*^3 - x^3}{x_* - x} = x_*^2 + x_* x + x^2$ $x_*^3 - x^3 = (x_*^2 + x_* x + x^2)(x_* - x)$

$\frac{x_*^4 - x^4}{x_* - x} = x_*^3 + x x_*^2 + x^2 x_* + x^3$

Δx を0に近づけると、 $\Delta x = x_* - x$ から $x_* = x$ に

$$\frac{x_*^n - x^n}{x_* - x} = \underbrace{x_*^{n-1}}_{x^{n-1}} + \underbrace{x x_*^{n-2}}_{x^{n-1}} + \underbrace{x^2 x_*^{n-3}}_{x^{n-1}} + \dots + \underbrace{x^{n-2} x_*}_{x^{n-1}} + x^{n-1} = nx^{n-1}$$

・公式3

$y = a + bx^n$ の微分は、

$$\frac{dy}{dx} = bnx^{n-1}$$

[証明] x から $x_* = x + \Delta x$ に変化(つまり、 $\Delta x = x_* - x$)

$$\begin{aligned} \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x} &= \frac{(a + bx_*^n) - (a + bx^n)}{x_* - x} \\ &= b \left(\frac{x_*^n - x^n}{x_* - x} \right) \\ &= bnx^{n-1} \end{aligned}$$

$\frac{x_*^n - x^n}{x_* - x} = nx^{n-1}$

(数値例)

$$y = a \text{なら、} \frac{dy}{dx} = 0$$

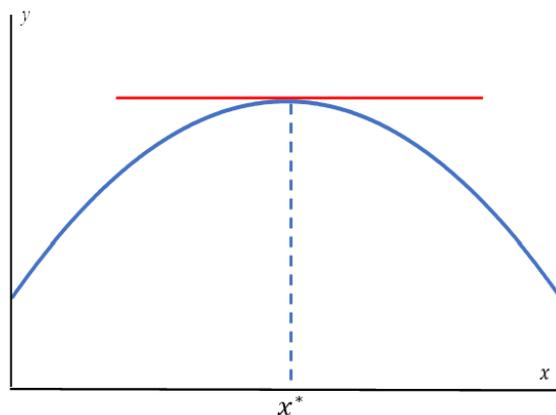
$$y = bx \text{なら、} \frac{dy}{dx} = bx^0 = b$$

$$y = 3 + 4x^3 \text{なら、} \frac{dy}{dx} = 4 \times 3x^2 = 12x^2$$

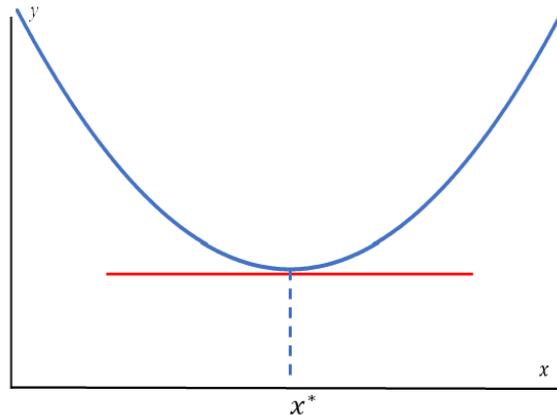
関数の最小化と最大化

関数の最大値と最小値で関数の傾きが0になる

(a) 最大値



(b) 最小値

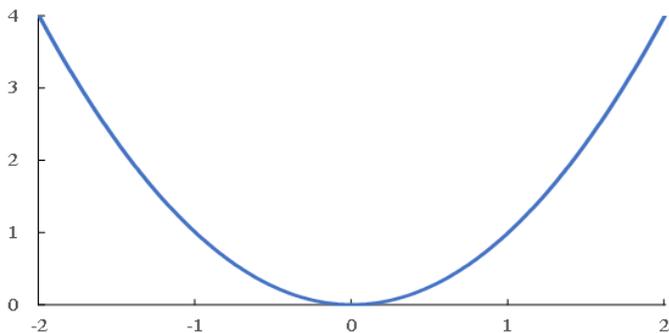


--- $f'(x) = 0$ となる x^* が最大化もしくはは最小化するポイント

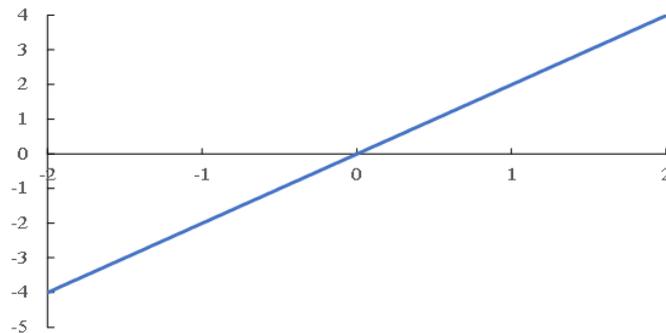
--- x^* から微小に x を増加させたら最大化か最小化か分かる

(例) $y = x^2$ の微分は $2x$ であり、 $2x = 0$ となるのは $x = 0$

(a) $y = x^2$



(b) 微分 $2x$



合成関数

▪ $y = f(x)$ とし、 x は別の変数 z の関数 $g(z)$

y は z の関数であり、 $f(g(z))$ を $f(x)$ と $g(z)$ の合成関数

(例) 関数 $y = (3 + 2z)^2$ は、

$y = x^2$ と $x = 3 + 2z$ の合成関数

▪ 合成関数の微分の公式

$$\frac{dy}{dz} = \frac{dy}{dx} \frac{dx}{dz}$$

つまり、

$$\left(\begin{array}{c} z \text{が変化したときの} \\ y \text{の変化量} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} x \text{が変化したときの} \\ y \text{の変化量} \end{array} \right) \times \left(\begin{array}{c} z \text{が変化したときの} \\ x \text{の変化量} \end{array} \right)$$

(例) 関数 $y = (3 + 2z)^2$ を、 $y = x^2$ と $x = 3 + 2z$ の合成関数とすると

$$\frac{dy}{dz} = \frac{dy}{dx} \frac{dx}{dz} = (2x) \times (2) = 4 \times (3 + 2z) = 12 + 8z$$

偏微分

- ・ 2変数 x_1 と x_2 が値 $f(x_1, x_2)$ に対応するとき2変数の関数
- x_1 に関する偏微分は、「 x_2 は固定した値として、 x_1 に関して微分をとったもの」

$$\begin{aligned}\frac{\partial y}{\partial x_1} &= \lim_{\Delta x_1 \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x_1} \\ &= \lim_{\Delta x_1 \rightarrow 0} \frac{f(x_1 + \Delta x_1, x_2) - f(x_1, x_2)}{\Delta x_1}\end{aligned}$$

---微分と区別するため、 d ではなく ∂ (ラウンド・デルタ)を使う

(例) $y = x_1^2 x_2$ とすると

$$\frac{\partial y}{\partial x_1} = 2x_1 x_2$$

$y = x_1^3 + 2x_1 x_2 - 4x_2$ とすると、

$$\frac{\partial y}{\partial x_1} = 3x_1^2 + 2x_2$$